

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 25 年 5 月 29 日現在

機関番号：14301

研究種目：若手研究（B）

研究期間：2010 ～ 2012

課題番号：22710261

研究課題名（和文）

分権化後のアフリカにおける土地・森林資源のローカルガバナンス再編と住民参加の動態

研究課題名（英文）

Reforming Land and Forest Resource Management and the Participatory Local Governance in African Rural Societies of Post-Decentralization

研究代表者：白石 壮一郎（SHIRAISHI SOICHIRO）

京都大学 アフリカ地域研究資料センター 特任研究員

研究者番号：80512243

研究成果の概要（和文）：

分権化後のアフリカの地域社会において、地域住民参加型の資源管理政策が実施されている。この研究は、住民の生活に密接した土地・森林資源の管理への住民の参加実態を、資源コンフリクトの構成-調停プロセスにおける分権型行政機関や NGO、CBO（住民組織）などのアクターと住民との関係形成との視点から記述した。コンフリクトの構成過程においては、通常の農村と異なり国立公園や森林保護区周辺部の農村ではメディアで流通する情報量や NGO などの活動の度合いが大きく、状況はより大きな文脈の政治に連結されやすい。コンフリクトの調停過程においては、英語コミュニケーション能力などいくつかの要因が個々の住民と諸アクターとの関係の親疎を左右し、これによって住民間の参加の度合いに大きく幅があることが明らかになった。

研究成果の概要（英文）：

Since decentralization policy had carried out, so-called Community-based Recourse Management has become the major approach in African agrarian societies. In this research, I describe the construction-mediation process of the conflicts over the use of forest / land recourse in local societies from the aspects of the dynamics of relation-making between the local people and the other actors such as NGOs, CBOs and newly established local organization. On the process of constricting the conflicts; different from ordinal rural villages, in the villages around National Parks or Forest Reserves, people can frame (or re-frame) the issue by information on media, internet or NGOs, the framing tends to reflect political economic situation of the country. On the process of conflict mediation; the accessibility and commitment of the local people to the activities of NGOs or CBOs is not a uniform state, it is depending on, for instance, their ability of communication in English.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2010 年度	1,000,000	300,000	1,300,000
2011 年度	800,000	240,000	1,040,000
2012 年度	1,000,000	300,000	1,300,000
年度			
年度			
総計	2,800,000	840,000	3,640,000

研究分野：新複合領域

科研費の分科・細目：地域研究 地域研究

キーワード：アフリカ地域社会、生活資源としての土地・森林、(リ)フレーミング、コンフリクト調停、関係形成

1. 研究開始当初の背景

サハラ以南アフリカ各国では、1990年代の構造調整政策以降の「民主化」政策の一環として地方分権化がすすめられた。以後、コミュニティ（地域社会）のポテンシャルを生かした地方行政や地域開発政策がデザインされるようになってきている。2000年代に入ってからとくに注目されるのは、コミュニティをとりこんだ協働型の地域の資源管理政策であった。この状況に対応して、分権化とともにNGO、分権型行政諸機関、住民組織など地域社会のアクターも多様化した。

こうした現実制度の動向とともに、開発学などの関連分野では、構造調整政策の反省のもと、地域社会における社会・経済的な脆弱者にゆきとどいた公正な配分を実現すべく、「住民組織」や「慣習法」などの在来社会制度によるガバナンスの再評価の潮流がある。しかしここで必要なのは、在来制度を固定した実体とし、それがガバナンスを実現すると捉える制度論ではなく、ガバナンスに関わる諸アクター間・各アクター内の関係形成を質的・動的に分析していく実証研究である。

これまで私は、「アフリカ地域社会での資源へのアクセスは不断の社会的交渉によって決定してゆく」という、在来社会制度を動的関係形成として過程的にとらえる立場から、農村住民間の土地利用・保有や、森林の利用と管理に関する実践を解明してきた。それらの研究手法は、分権化後の協働型資源管理をになう諸々のアクターの関係形成のあり方を動的に記述・分析にも応用できると考えた。

2. 研究の目的

本研究の目的は、地方分権化政策後のアフリカ地域社会において、土地・森林などの資源をめぐるコンフリクト発生と調停の実態把握をおこない、住民参加型の資源ガバナンスを再検討することにあつた。そのさい、これまでの私の研究で明らかにされていた在来の紛争調停の諸実践と、この研究で明らかにされるべき分権型の政府資源管理機関やNGO、住民組織などの新たなアクターの資源利用や紛争調停へのかかわりとの双方に着目して実態を記述し（事例研究）、そこから抽出されたコンフリクトの構成-調停過程を把握していくことを目指した。これによって

分権化とその影響下にある地域住民との参加の様態の変化と、それによってすすむローカル・ガバナンスの再編を実証的に解明しようと試みた。

3. 研究の方法

東アフリカのウガンダ共和国内の2つの地域（中部農村およびマビラ国立森林保護区、東部エルゴン山城農村および国立森林保護区）を対象地として調査をおこなった。収集する調査資料は、政府統計や報告書などの状況把握のための文献資料、現地でのさまざまなコンフリクト事例を把握するための裁判記録やアクターへの聞き取り調査資料がおもなものである。資料を収集するにあたっては、土地法廷（Land Tribunal）や国家森林局支部（National Forest Authority）、NGO、住民組織、さまざまな地域社会の人びとの協力を得た。

収集したこれらの資料をもとに、土地・森林資源をめぐる住民どうし、あるいは周辺の諸アクターと住民とのあいだでのコンフリクトの事例から主要なものを選び、コンフリクトの構成過程と調停過程のふたつの段階での検討をおこなった。

4. 研究成果

初年次の2010年度および第2年次の2012年度は、現地調査にて関係機関を歴訪、またコンフリクトの生じた現地におもむいて集中的に資料収集をおこない、それらの内容整理にあつた。まず、①村レベルでの地方評議会、親族会議にて資源コンフリクトがどのように審議されているかについて、それぞれ現地で得た事例データをもとにしての整理・記述を試みた。次に、②都市近郊農村部（森林保護区周辺の土地・森林資源）と遠隔地農村部（東部の国立公園周辺の土地資源）とで資源コンフリクトのあり方を比較し、その差異を検討した。とくに、NGOのアファーマティブアクションと地域住民との連携や、マスコミ報道、SNSを通じてのコミュニケーションなどと連動した地域住民の当該コンフリクトのフレーミング（問題化）のあり方について検討した。

通常の農村部と異なり、国立公園や森林保護区周辺部の農村ではメディアで流通する情報量やNGOなどの活動の度合いが大きく、

状況はより大きな文脈の政治に連結されやすい。コンフリクトの調停過程においては、英語コミュニケーション能力などいくつかの要因が個々の住民と諸アクターとの関係の親疎を左右し、これによって住民間の参加の度合いに大きく幅があることが明らかになった。

最終年度にあたる 2012 年度は、過年度に入手した調査データの分析をすすめ、国際学会での発表、書籍チャプター論文としての公刊をおこなった。また、アフリカの研究者との議論をおこなうためのワークショップを実施し、議論をすすめた。

本研究の成果は、(1)土地や森林を抽象的な「資源」としてではなく、現地住民の生計にかかわる具体的な有用物として捉え、貨幣経済とのかかわりから有用性そのものも変化するなかで新たなタイプの紛争が生じていること、(2)分権型の政府資源管理機関や NGO、住民組織など新たなアクターとの関係形成のあり方が住民のなかでは様々であり、その様々な関係性がそのまま在来の資源利用・紛争調停のやり方での対処の現場に反映され、方向付けられること、(3)こうした新たなタイプの紛争や関係形成は、NGO やラジオ、新聞などのメディアをとおした住民による「問題の再帰的な把握 (リフレーミング)」のもとでなされていること、などが明らかになったことである。

これらの成果は、以下に記すかたちで発表され、まとめられている。今後も、実施した調査の単著論文公刊、実施したワークショップの成果出版をおこなう予定である。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 2 件)

1. 白石壮一郎 (2012) 「フィールドワーカーの靴」、『Field + (フィールドプラス)』no.8、東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所 [査読なし]
2. 白石壮一郎 (2010) 「路上、ゴンダール—川瀬慈による 3 つの短篇」、『KG/GP 社会学批評』第 2 号、関西学院大学大学院社会学研究科、pp.50-52. [査読なし]

[学会発表] (計 8 件)

1. Soichiro Shiraishi (August, 2012) Handling Democratic Systems: Daily functions of police, courts and Local Councils in rural Uganda, Eastern Africa. *Second ISA Forum of Sociology: Social Justice and Democratization, International Sociological Association in Buenos Aires.*
2. 白石壮一郎 (2012 年 2 月) 「融合・共同研

究の現場 —サブサハラアフリカ地域での制度と実際」、東京外国語大学 共同研究プロジェクト「社会開発分野におけるフィールドワークの技術的融合を目指して」第 7 回研究会 (於 東京外国語大学本郷サテライト)

3. 白石壮一郎 (2011 年 10 月) 「土地争議における氏族制・村評議会制・地方政治権力—ウガンダ東部、サビニ社会での調停手法から〈デモクラシー〉を考える」、国立民族学博物館 共同研究「アジア・アフリカ地域社会における〈デモクラシー〉の人類学—参加・運動・ガバナンス」研究会 (於 国立民族学博物館)
4. SHIRAISHI Soichiro & Kiprotich M. Solomon (September, 2011) Asking about Land Issues: Unveiling Hidden Agendas? *Approaches and Methodologies of Field Research in Africa*, JSPS Nairobi Research Station, Kenya.
5. 白石壮一郎 (2011 年 3 月) 『文化の権利、幸福への権利 —人類学から考える』をめぐって」、関西学院大学先端社会研究所 2010 年度第 10 回定期研究会 (於 関西学院大学上ヶ原キャンパス)
6. 白石壮一郎 (2011 年 3 月) 「〈場〉のダイナミズムから考える—支援のフィールドワークを深めたい人へ」、日本福祉大学アジア福祉社会開発研究センター小研究会 『『場』から拓く支援とフィールドワーク』 (於 日本福祉大学名古屋キャンパス)
7. 白石壮一郎 (2010 年 11 月) 「イントロダクション」、第 83 回日本社会学会大会 若手企画テーマ部会 (1) 「グローバル化と移動・定住のフロンティアの現在」 (於名古屋大学)
8. 白石壮一郎 (2010 年 10 月) 「1980 年代国立大学新々寮反対闘争にみる再領有の実践」、共同研究 東アジアのストリートの現在 第 12 回研究会 「Mess-ing the Streets!?!—〈汚れた公共空間〉構想のために」 (於関西学院大学)

[図書] (計 12 件)

1. 白石壮一郎 (2012) 「多民族国家の民族分布 —民族集団と政治経済」、吉田昌夫・白石壮一郎編 『ウガンダを知るための 53 章』、明石書店
2. 白石壮一郎 (2012) 「村の雑貨店 —商品経済への窓口」、吉田昌夫・白石壮一郎編 『ウガンダを知るための 53 章』、明石書店
3. 白石壮一郎 (2012) 「商品作物栽培と農村の暮らしの変化 —あるトウモロコシ栽培山村から」、吉田昌夫・白石壮一郎編 『ウガンダを知るための 53 章』、明石書店
4. 白石壮一郎 (2012) 「農村でのもめごと解決 —村評議会と親族会議」、吉田昌夫・白

白石一郎編『ウガンダを知るための53章』、明石書店

5. 白石一郎 (2012)「森林管理政策の転換と保護区をめぐる争い —政治資源としての森林」、吉田昌夫・白石一郎編『ウガンダを知るための53章』、明石書店
6. エドワード・キルミラ／白石一郎訳 (2012)「エイズ対策への新たな取り組みの可能性 —禁欲・貞節型のプログラムを超えて」、吉田昌夫・白石一郎編『ウガンダを知るための53章』、明石書店
7. 白石一郎 (2012)「コラム 農村におけるラジオの効用 —ウサマ・ビン・ラディンと呼ばれた女」、吉田昌夫・白石一郎編『ウガンダを知るための53章』、明石書店
8. 白石一郎 (2012)「コラム タクシー、ボダボダ —『市民の足』あれこれ」、吉田昌夫・白石一郎編『ウガンダを知るための53章』、明石書店
9. 白石一郎 (2012)「コラム ウガンダと日本」、吉田昌夫・白石一郎編『ウガンダを知るための53章』、明石書店
10. 白石一郎 (2011)「ブックガイド —支援のフィールドワークを深めたい人へ」、小國・亀井・飯嶋編『支援のフィールドワーク』、世界思想社、pp.196-206.
11. 白石一郎 (2011)『東アフリカ農村社会における農業の商業化と共同性の再構築に関する人類学的研究—ウガンダ、サビニ社会の事例』、博士学位申請論文 (京都大学)
12. 白石一郎 (2011)『文化の権利、幸福への権利 —人類学から考える』、関西学院大学出版会。

[産業財産権]

○出願状況 (計0件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

○取得状況 (計0件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

[その他]

ホームページ等

◎ 京都大学グローバル COE プログラム「生存基盤持続型の発展を目指す地域研究拠点」

http://www.humanosphere.cseas.kyoto-u.ac.jp/article.php/member_shiraishi

◎ 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所基幹研究「アフリカ文化研究に基づく多元的世界像の探求」

<http://aaafrica.aacore.jp/othermember/2012/01/post-4.html>

◎ Fieldnet 利用者情報

<http://fieldnet.aa-ken.jp/member/SHIRAISHI>
Soichiro

◎ アフリカ研究者とのワークショップ

・ 2011 年度

<http://www.jspsnairobi.org/seminar/757.html>

・ 2012 年度 (作成中)

6. 研究組織

(1) 研究代表者

白石 壮一郎 (SHIRAISHI SOICHIRO)

京都大学アフリカ地域研究資料センター・特任研究員

研究者番号：80512243

(2) 研究分担者

()

研究者番号：

(3) 連携研究者

()

研究者番号：